

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

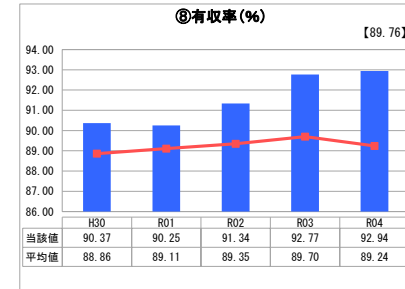
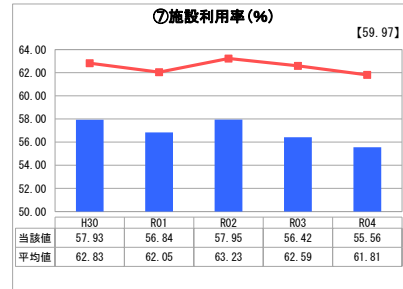
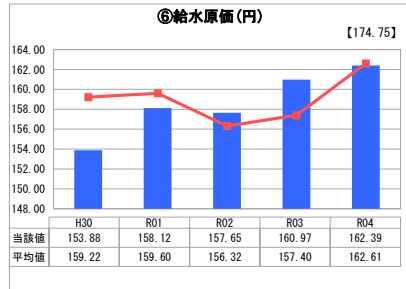
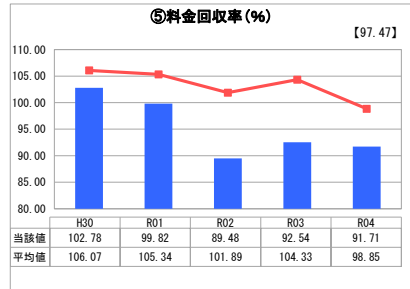
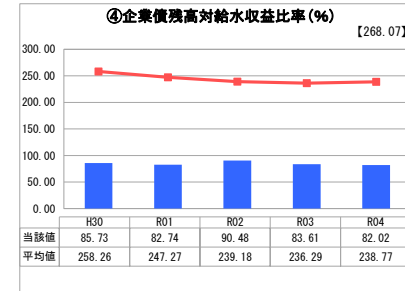
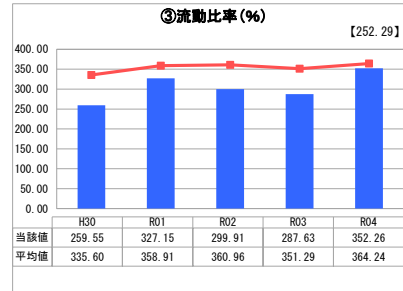
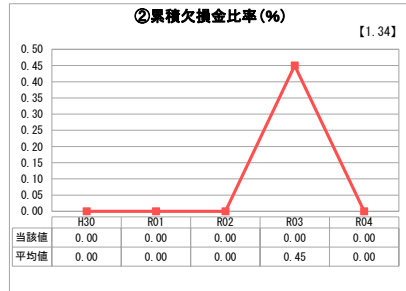
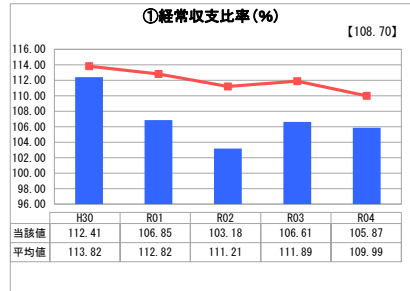
埼玉県 鴻巣市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	87.16	99.93	3,058	

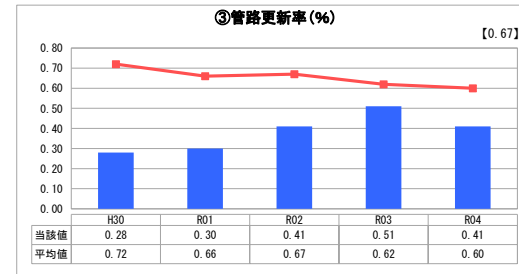
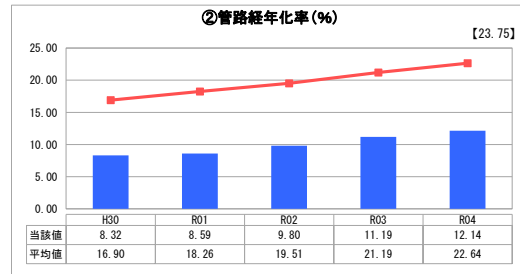
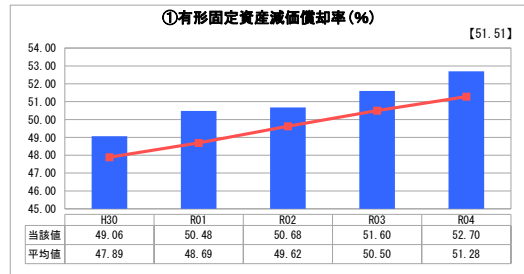
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
117,798	67.44	1,746.71
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
117,584	62.44	1,883.15

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を超え、収支は黒字となっておりますが、電力料の高騰に伴う動力費の増加等により、前年度から下がっています。  
 ②累積欠損比率は長期にわたって0%であり、本市の水道事業は安定した運営ができていますと考えられます。  
 ③流動比率は例年100%を大きく上回っており、短期的な債務に対する支払能力を有しています。  
 ④企業債残高対給水収益比率は企業債の発行を抑制してきた時期があったこと、借入額より償還額の方が多いことから、現在でも低い水準となっています。  
 ⑤料金回収率は、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大や物価高騰の影響を受ける市民生活等の支援として行った基本料金免除の影響により、100%を大きく下回っています。  
 ⑥給水原価は有収水量が年々減少していること、動力費等が増加していること、令和4年度においては、計画期間の中間年度となったことから水道事業ビジョンの見直しを行ったことなど委託料の支出もあつたことから、上昇傾向にあります。引き続き、計画的に管路の更新を行い、適正な維持管理や効率化による費用の削減に努めます。  
 ⑦施設利用率は類似団体を大きく下回っており、ダウンサイジングなど施設能力の適正化について、今後検討していく必要があります。  
 ⑧有収率は類似団体を上回り、90%を超える水準となっております。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は類似団体より、高い値となっております。  
 ②管路経年化率は類似団体より低い値ではありますが、増加傾向にあります。  
 ③管路更新率については、例年、類似団体平均を下回っております。令和3年度に地域連絡管の整備を進めたことなどから、前年に比べ、減少しました。施設全体の減価償却率は高くなっており、浄水場施設・設備等の老朽化も進んでいると考えられますが、耐用年数経過後も適正な維持管理による延命化を図るとともに、経営状況を踏まえた上で適正な投資を進めていきます。

### 全体総括

経営の健全性・効率性に係る指標から、財務状況については、概ね健全な状況にあると言えますが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大や物価高騰の影響を受ける市民生活等の支援として行った基本料金免除の影響から料金回収率が100%を下回っています。これは近年の特殊な事情によるものですが、今後も人口減少や節水機器の普及により、給水収益の減少が見込まれ、さらに、管路や施設の老朽化は年々進行しているため事業費の増大は避けられなくなっています。そのため、計画的な更新を実施して事業費の抑制・平準化を図ることや、水需要に見合った施設規模の適正化、適切な維持管理による延命化など、効率的な運営が必要になります。水道事業を取り巻く環境は厳しさを増していますが、今後も健全で安定した運営が継続できるよう、中長期的な視点に立ち、課題の解決に努めてまいります。